

易経の陰陽概念

陰	陽
地	天
夜	昼
悪	善
邪	正
止	動
弱	強
柔	剛
小	大
月	日
寒	暑
女	男
子	親
息	母
子	母
一	十



このように、陰と陽は変化し、絶対的な陰、絶対的な陽は存在しない

トセラールになった時には、すでにピークは過ぎていたのです。

ベストセラー商品は、世間に一大ブームを巻き起こし、注目されるのですが、ある日突然売れなくなり、生産者は大量の在庫を抱えてしまうといったことが起きます。ベ

「潜龍」と呼び、自分が「潜龍」にあたる人は、たとえば、この時期に大きなプロジェクトを引き受けても失敗する可能性があります。焦って早成を求めてはいけないのです。この時期は志

「易経」では、時流を追いかけられる者は時流とともに滅びる、と教えています。時流を追い前にます、どんな人、どんな企業にも春夏秋冬が巡ってくることを自覚してください。「易経」では人生やビジネスがどのように伸び、どのように衰退していくかを龍の変遷にたとえて表現しています。

あらゆる事象には陰と陽がある

ツキの話に戻りましょう。人がツキを意識し、ツキが欲しいと思うのは、どんな時でしょうか。ズバリ、ツイていない時です。ところが、ツキを意識した時に限ってツキに逃げられます。その違いは、ベストセラー商品とロングセラー商品の喩えで説明するとわかりやすいでしょう。

を抱き、いつでも力を発揮できるような努力して待つ我慢が必要です。逆に何でも思いどおりに物事が運ぶ絶頂期を「飛龍」と呼びます。ツイている時ともいえるでしょう。社会的に認められ、お金も儲かり、人も大勢まわりに集まってきます。しかし、こういう時こそ要注意です。経営者のなかにはこの時期に独裁的になる人もいます。順調を過信せず、他人の言葉を聞き、苦手な人を遠ざけない努力をする必要があります。

トセラールになった時には、すでにピークは過ぎていたのです。

ベストセラー商品は、世間に一大ブームを巻き起こし、注目されるのですが、ある日突然売れなくなり、生産者は大量の在庫を抱えてしまうといったことが起きます。ベ

「潜龍」と呼び、自分が「潜龍」にあたる人は、たとえば、この時期に大きなプロジェクトを引き受けても失敗する可能性があります。焦って早成を求めてはいけないのです。この時期は志

「易経」では、時流を追いかけられる者は時流とともに滅びる、と教えています。時流を追い前にます、どんな人、どんな企業にも春夏秋冬が巡ってくることを自覚してください。「易経」では人生やビジネスがどのように伸び、どのように衰退していくかを龍の変遷にたとえて表現しています。

を抱き、いつでも力を発揮できるような努力して待つ我慢が必要です。逆に何でも思いどおりに物事が運ぶ絶頂期を「飛龍」と呼びます。ツイている時ともいえるでしょう。社会的に認められ、お金も儲かり、人も大勢まわりに集まってきます。しかし、こういう時こそ要注意です。経営者のなかにはこの時期に独裁的になる人もいます。順調を過信せず、他人の言葉を聞き、苦手な人を遠ざけない努力をする必要があります。

陽の時には陰の力で、陰の時には陽に向かって

私は経営者の方から、とくに後継者問題について数多くの相談を受けますが、ご自分が元氣な陽の状態の時に、後継者選びや、後継者育成に取り組みことをお勧めしています。ただし、勢いに任せて判断を誤らぬよう、そこに陰の要素、すなわち「聞く耳を持つ」

一方、ロングセラー商品は、爆発的に売れることがない反面、きわめて長期間にわたって一定の数量売れ続けます。そこにはベストセラー商品のようないびつさはなく、ムリもありません。ツキとはこのように、たまたま巡ってきた僥倖ではなく、「易経」の陰陽の考え方に基づく自然な流れによって生み出される良好な状態のことです。一つの物や事象には陰と陽があります(左上の図表参照)。たとえば、冬は陰で、夏は陽。女が陰で男は陽です。ただし、これら陰陽は優劣ではなく、表裏一体のもの。互いにバランスよく作用し合い、変化して循環し、新たなものを生み出します。

一方、経営者も会社も陰の状態、つまり業績が悪い時は、ついつい目も耳もふさいでしまいたくなりますが、そこから決して逃げたいはいけません。いま自分が置かれている状態を素直に受け入れれば、陰の時にしか見ることができない別の風景を見ることができはすです。そして、その別の風景は、間違いなくあなたの一生の財産になるでしょう。吉は必ず凶に向かい、凶はまた吉へと向かうのです。易経には「易は窮すれば変ず。変ずれば通ず。通ずれば久」と書かれています。

「易経」では、時流を追いかけられる者は時流とともに滅びる、と教えています。時流を追い前にます、どんな人、どんな企業にも春夏秋冬が巡ってくることを自覚してください。「易経」では人生やビジネスがどのように伸び、どのように衰退していくかを龍の変遷にたとえて表現しています。

私は経営者の方から、とくに後継者問題について数多くの相談を受けますが、ご自分が元氣な陽の状態の時に、後継者選びや、後継者育成に取り組みことをお勧めしています。ただし、勢いに任せて判断を誤らぬよう、そこに陰の要素、すなわち「聞く耳を持つ」

「易経」では、時流を追いかけられる者は時流とともに滅びる、と教えています。時流を追い前にます、どんな人、どんな企業にも春夏秋冬が巡ってくることを自覚してください。「易経」では人生やビジネスがどのように伸び、どのように衰退していくかを龍の変遷にたとえて表現しています。

一方、経営者も会社も陰の状態、つまり業績が悪い時は、ついつい目も耳もふさいでしまいたくなりますが、そこから決して逃げたいはいけません。いま自分が置かれている状態を素直に受け入れれば、陰の時にしか見ることができない別の風景を見ることができはすです。そして、その別の風景は、間違いなくあなたの一生の財産になるでしょう。吉は必ず凶に向かい、凶はまた吉へと向かうのです。易経には「易は窮すれば変ず。変ずれば通ず。通ずれば久」と書かれています。

一方、経営者も会社も陰の状態、つまり業績が悪い時は、ついつい目も耳もふさいでしまいたくなりますが、そこから決して逃げたいはいけません。いま自分が置かれている状態を素直に受け入れれば、陰の時にしか見ることができない別の風景を見ることができはすです。そして、その別の風景は、間違いなくあなたの一生の財産になるでしょう。吉は必ず凶に向かい、凶はまた吉へと向かうのです。易経には「易は窮すれば変ず。変ずれば通ず。通ずれば久」と書かれています。

(談)